



# チャレンジ!一歩前へ

郡山市立橋小学校  
学校だより No.61  
令和6年 2月13日  
文責:校長 酒井 健

## ◇ラッセン氏の絵画が橋小学校で展示されています。

皆さんご存知のクリスチャン・リース・ラッセン氏の絵画が2月9日(金)から2月16日(金)まで、橋小学校の東昇降口に展示されています。これは、郡山市が市制施行100周年を記念して、ラッセン氏の絵画を無償で貸与していただき、市内の小・中学校を対象に巡回展示していただく事業であります。

海や海洋生物をモチーフにしたマリンアートと呼ばれる作風で知られているアメリカの画家、クリスチャン・リース・ラッセン氏。幼少の頃にハワイに移り住み、海やイルカなどの自然に触れ合う生活を通して、色彩に対する豊かな感性を養ったのだそうです。今回は、そのラッセン氏の原画の展示です。

子どもたちの目にどんな風に映るのか・・・楽しみです。お時間がありましたら、せっかくの機会でもありますので、保護者の皆様もぜひご覧になってください。校舎東側の児童昇降口に展示しています。



## 校長のひとりごと ある有名な数学者のお話です。

私は、子どもの頃から、ずっと算数・数学が得意だったわけではない。計算ミスは多いし、文章問題は読んでも意味がわからないし・・・。だから、むしろ数学は嫌いな教科であった。

そんな私の転機は中1の夏休み。友達と一緒に宿題をやっていたときのことだ。自分の計算が間違っていたのだが、その友達が「この部分がおかしいよ」と教えてくれた。それだけなら別にたいしたことはない誰にでもよくある光景だが、それまで何度も同じミスをしてきて「どうして間違えてしまうのだろう」と思いながらも、自分の計算ミスのくせに気付かず放置していた自分にとって、初めて、「あっ、こういうことだったのか」と分かった瞬間に出会えたのである。

霧が晴れるように、自分の視界が一気に明るくなり、本当に気持ちよかった。この気持ちよさこそが数学の楽しさだと気付いたのは、ずいぶん後になってからだけど、「数学という教科とどうやって付き合っていけばよいか」のコツみたいなものは、はっきり分かったような気がした。

それまでは、特に宿題なんて、よく考えずに「とにかく終わっていけば怒られないから」という気持ちで雑にやっていた。でも、この時から、この問いでは、自分のどんな知識を試そうとしているのだろうか?どんな方法で解けば簡単にできるだろう?なぜその方法で解けるのだろうか?と考えるようになった。つまり、分からないことを放置せずに、「あっ、こういうことか!」という発見の回数を増やすことにした。・・・(中略)・・・

二年後の3年生の夏には数学が一番の得意教科となった。

この時の出来事は、「自分の人生を変えてしまうほどのきっかけ」であった。



“きっかけ”って大切ですね。算数が好きになる・リコーダーが得意になる・みんなの前で堂々と話すことができる・なわとびが上手になる……子どもたちの身の回りには、たくさんのきっかけがあります。その“きっかけ”に気付くかどうかポイントなんですね。

学校でも、ご家庭でも子どもたちの、この“きっかけ”を大切にしていきたいものです。私自身、これまで、たくさんの“きっかけ”があり、今の自分が在るんだと感じています!